

## 令和3年度 卒業式・修了式 学長式辞

本日、山梨大学の学部・専攻科・大学院の卒業式・修了式を迎えた1,094名の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

また、今まで皆さんを励まし、支えてくださったご家族の皆様方には、教職員・在学生一同を代表して、心からお祝いを申し上げますとともに、これまでの本学への厚いご支援に対し、心より御礼申し上げます。また、卒業式がこのような形で開催となったことにご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

世界に目を転じますと2月24日に始まったロシアのウクライナの軍事的侵略は、許しがたい暴挙であります。連日、女性、子供を含むウクライナ国民に対する残虐な映像が報道され、目を覆うばかりです。ロシアは即時、戦闘を中止すべきであります。米国を含むヨーロッパのNATO諸国も一致団結してこの暴挙を止めるべく、経済制裁以上の有効な方策を考案・実行して欲しいものです。当然、日本も最大限の努力をすべきだと考えます。

さて、新型コロナウイルス感染症（COVID19）のパンデミック宣言から2年が経過しました。昨年は世界中で猛威を奮い、7月の東京オリンピック・パラリンピック2020も無観客で行われるという事態になりました。それとともにデルタ株が急速に拡大、病床逼迫も起こり、大変な事態となりました。皆さんも多くの授業がオンラインとなり、友人との交流も制限、アルバイト収入も減り、かつて経験したことのない厳しい生活を強いられています。オミクロン株による第6波では、1～2月には感染が爆発的に増加しました。3月には少し減少しましたが、予断を許さない状況です。

本学医学部附属病院では、山梨県の病院の代表としてこの2年間、全力でコロナ対策に取り組み、ダイヤモンドプリンセス号の患者受入れをはじめ、県内第1号の受け入れも行い、髄膜炎患者や乳児患者の症例を経験し、世界に発信してきました。また、ワクチン接種もいち早く開始、大学職員だけでなく、あらゆる職種の方々に延べ10万人以上に接種を行いました。本学では、学生さんの9割以上が接種したことで、後期から対面授業を他

の大学に先駆けて安心、安全に開始することができました。また、高校生にも接種したことで今回の入試においても受験生の感染を防ぐことができたと思っています。

特筆すべきは、8月から県の要請に応え、東横イン富士河口湖大橋、ルートイン山梨中央、今年1月からドーミーイン甲府丸の内のホテルを医療強化型宿泊療養施設として運営しています。

スマホのQRコードから患者さん自身に発熱や呼吸状態を入力してもらい、ホテル常駐の医師、看護師が一括管理するシステム、シンゲンシステムを開発しました。これらのホテル療養に入ると、患者さんは、軽症、中等症の方が多いので、最近開発された治療の対象となります。例えば、ロナプリーブカクテル抗体療法は91名の患者さんに、ゼビュディというモノクローナル抗体療法は100名の患者さんに投与し、重症化を防げたものと思います。このホテル療養では、トータル2500~3000名の患者さんが入所されました。

これにより、重症医療機関の病床逼迫が大いに緩和され、山梨県の医療崩壊が防げたものと考えます。このシステムは、ホテルだけでなくホームケアに応用できたことは、全ての患者さんに医師の目が届くことになりました。これらの取り組みは山梨県からも高く評価され、昨年11月25日、県政特別功績という県の最高賞も受賞いたしました。

コロナ禍で益々厳しい環境に置かれている地方国立大学ですが、本学は、全国に先駆けた様々な改革を実施しております。一昨年に公立の山梨県立大学と連携、全国初となる一般社団法人「大学アライアンスやまなし」を設立、昨年“大学等連携推進法人”の認定を受け“教学上特例措置”を活用し学位課程における連携開設科目を53科目開設しました。更に、地域人材養成センター、山梨県幼児教育センターも立ち上げました。これらが文部科学省から高く評価され、昨年12月に国立大学法人評価委員会から業務運営部門で全国立大学中、特筆すべき事例として、NO.1の業績と評価されたところです。

これに伴い、本学は「改革を推進する大学」として認識され、内閣府や文部科学省から高く評価され、一昨年度、内閣府からの国立大学イノベーション創出に関する補助金では、地方国立大学のなかで唯一採択され、2年間で3億円を獲得し、昨年は、文部科学省からの国立大学改革強化推進補助金として2億円を獲得するなど、数々の大型資金事業が採択

をされております。山梨大学を代表する世界最高峰の研究プロジェクトである水素/燃料電池でも FCyFINE (Fuel Cells-Yamanashi Frontier for Innovation and Ecosystem) 事業の社会実装第1段として日邦プレシジョンとの共同研究で、燃料電池自転車完成し、そのお披露目に長崎知事と一緒に試乗式を行ったことは楽しい思い出です。近年自転車の人気はめざましく、各種関連企業との協力も進んでいます。

山梨県も米倉山で太陽光発電から水素を生産し、乗り物だけでなく建物内でも燃料電池を駆動させるCO2フリー、カーボンニュートラルな社会を創ることを目標にしています。

夢を抱いて入学されてからの学生生活の後半はコロナ禍で過ぎ去ってしまったと感じている人が多いのではないかと思います。しかし、この普通でない生活の中、皆さんは、日々学問の研鑽を通じ、幅広い教養とともに多くの知識や技術を修得し、コロナによる様々な困難な状況を乗り越えながら、大きく成長されたことと思います。

本日修了・卒業される皆さんには、今後、家庭、団体、県や国家など実社会の様々な領域に於いて周囲の要請に応えられるよう、学習努力を継続して頂きたいと思います。大学で得た知識や、先生、友人、海外の文化と人との出会いは人生の宝になります。また、コロナ禍の難局を経験したことも力となり、明るい未来が必ず開けるはず です。

ところで、今年も卒業生の中に世界11か国から来られた65名の留学生がいます。言葉はもちろんのこと、文化や習慣など、様々な面で大きく異なる環境下で修学することは大変困難であったろうと思います。それを乗り越えて本日を迎えられた皆さんを称え、英語でメッセージを送ります。

In conclusion, I would like to make a short address in English for the 65 international students who are attending today.

International students graduating today - you have left your homeland far away, overcome the barriers of different languages, cultures and customs, and

continued your studies at the University of Yamanashi.

The spread of COVID-19 caused you to worry about your life in Japan, and at the same time, you were also worried about your home country.

Despite these circumstances, you have overcome the hardships and have grown significantly through your daily academic studies. As proof of that, you were awarded a diploma today. I would like to express my deepest respect for your efforts so far.

The knowledge and skills you learned in this beautiful Yamanashi with a close view of Mt. Fuji, the teachers and friends you met, and the foreign culture you experienced will be treasures remaining with you. Your experience of the difficult situation during the COVID-19 pandemic will also help you in future activities.

Please make great use of all you learned here for the development of your home country.

And please be a bridge of friendship between your home country and Japan.

I wish you all the best.

結びになりましたが、皆さんが自分の人生は自分がつくるという自覚を持って、地域のため、日本のため、そして世界のために活躍されることを心より祈念し、私の式辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

令和4年3月18日

国立大学法人山梨大学

学長 島田 眞路

(以下、和訳)

本日修了される留学生の皆さんは、遠く祖国を離れ、異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、山梨大学での学びを貫徹されました。

COVID-19の感染拡大は、日本での生活に不安であると同時に、母国のことも心配されていたと察します。

こうした状況の中、皆さんは、日々学問の研鑽を通じ、苦難を乗り越え、大きく成長されました。その証として本日、学位記を授与されました。皆さんのこれまでの努力に対し、心から敬意を表します。

富士山を間近に望むこの美しい山梨で身につけた知識や技術、出会った教員や友人、そして異国の文化は宝となります。また、コロナ禍の難局での経験も力となるでしょう。どうか、母国の発展のために大いに役立ててください。そして、母国と日本との友好の架け橋となってください。皆さんの健闘を祈ります。